令和6年度宇都宮南高等学校 各学年・各教科・各部の目標と方策

	I 安全・安心な魅力ある学校づくり	II 確かな学力の育成	III 進路実現につながるキャリア教育の充実	IV 働き方改革の推進と不祥事防止
本年度の 重点目標	<p>1 自己有用感・自己指導能力を育む指導</p> <p>① 学業指導等を通じた日常的な生徒指導の充実</p> <p>2 文武両道の奨励</p> <p>① 部活動における自己ベストの追求を通じた自己理解、自己発見、自己管理の実現及びレジリエンスと自己有用感の向上</p> <p>② 国際理解教育の推進と国際交流活動を通じた多様性への理解及び自己理解の深化</p> <p>③ 地域理解、地域連携、地域貢献を通じた視野の拡張及び利他性の育成</p> <p>3 生徒一人ひとりへの支援の充実</p> <p>① 教育相談等を含めた個人面談の充実</p> <p>② いじめ・不登校生徒の早期発見・早期対応</p> <p>③ スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の外部人材の活用</p> <p>4 安全・安心な学習環境の提供</p> <p>① 交通マナーや規則の遵守</p> <p>② 危機管理の徹底（最悪を想定し慎重に素早く誠実に組織で動く）</p> <p>③ 報告・連絡・相談の徹底及びその後の確認</p> <p>5 教職員の心と身体の健全化</p> <p>① 管理職を含めた周囲のサポートと計画的な年休取得</p> <p>② 健康診断や再受診などの健康の保持・増進</p>	<p>1 主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業改善</p> <p>① 丁寧でわかる授業の実践</p> <p>② 家庭学習・自主学習等の習慣化に向けた工夫と改善</p> <p>③ 教職員研修の充実</p> <p>④ 新学習指導要領の着実な実施</p>	<p>1 生徒一人ひとりの進路意識の向上</p> <p>① HR、進路講話等を通じた進路意識の向上</p> <p>② 進路選択の拡大</p> <p>③ 学びのポートフォリオの活用</p>	<p>1 働き方改革の推進</p> <p>① 教職員一人ひとりの意識改革</p> <p>② 持続可能な部活動指導の在り方の検討</p> <p>③ 業務の進行管理と円滑な引継ぎ</p> <p>④ ICTの活用による業務の効率化及び情報の共有化</p> <p>2 教職員の不祥事防止</p> <p>① 風通しの良い職場環境の整備</p> <p>② 校内研修の充実</p>
	1 学年	<p>○ルールやマナーを遵守し、自立した生活を意識させる。 行動の結果を振り返り自己を成長させる力を身に付けさせる。</p> <p>○部活動等に意欲的に取り組ませる。学習との両立に対する目的意識を身に付けさせる。</p> <p>○多様性を認め、協調、協働する力を養うとともに、自らの価値を認めあう力を醸成するための働きかけをする。</p> <p>1) 生徒の行動に留意し、不適切な行動があればその場で指摘すると同時に、どのように行動すれば良かったのかを考えさせる。</p> <p>2) 何を為すべきかを自らに考えさせ、主体的な活動や学びに結びついていくよう助言する。</p> <p>3) 面談等を通して、情報収集の手段や方法について具体的なアドバイスを心がける。</p>	<p>○課題に対して主体的に解決する力を身に付けさせる。</p> <p>○自主学習に向けたスケジュール管理の習慣を身に付けさせる。</p> <p>○外部機関等の講習や研修に参加する機会を設ける。</p> <p>○3観点評価を実施し、より良い評価方法を模索する。</p> <p>1) 授業中等に自ら思考・判断する場面をつくり、協働して学習を進める時間を増やす。</p> <p>2) スタディサプリを導入し、朝の学習だけではなく部活動との両立にも役立てていくことができるよう助言していく。</p> <p>3) 講習や研修の資料等を必要に応じて回覧・掲示していく。</p> <p>4) 教科間、学年間で情報共有を行いながら、より良い評価になるように試行錯誤を繰り返していく。</p>	<p>○進路資料や情報誌を活用、提供し、進路に対する意識付けを積極的に働きかけていく。</p> <p>○学習の取り組みを踏まえつつ、自分自身の特性を見定める力を養い、文理コース選択に生かす。</p> <p>1) 休日や長期休業期間を利用し、オープンキャンパスや見学会等に積極的に参加し、情報を得よう促していく。</p> <p>2) 生徒個別面談や保護者との情報共有を密に行い、生徒一人一人にあった進路を検討し、方向性や可能性を導き出し、生徒に紹介していく。</p>
2 学年	<p>○協同的な活動を通じて他者から認められ、集団の中に自分の居場所があると感じられる絆作りを進める。</p> <p>○自らの生活を客観的に見つめ直し、部活動との両立等を見据えた自己管理ができるよう導く。</p> <p>○個人面談等の機会を有効的に活用していくとともに、学年内の情報共有に努めながら生徒の心的支援を行う。</p> <p>1) 生徒一人一人に活躍の場を提供し、役割を与え、それを果たした活動・努力を承認・称賛する。</p> <p>2) 手帳を活用して生活を記録させることにより、生活リズムの見直しをさせ、改善へと導く。</p> <p>○学年を一つのクラスと捉え、「いつでも誰でも誰にでも」を心がけながら生徒の支援に当たる。</p>	<p>○主体的に問題解決に取り組む姿勢や、それに基づいた手立てを準備し、常に「問題意識を生み出す」という視点で授業を行う。</p> <p>○基礎学力の定着と応用力が身につくことを目指し、主体的な学習の習慣化を促す。</p> <p>1) 学習内容につながる気付きや疑問を持たせる。また、そのことを他者と共有するために表現ができるよう努力させる。</p> <p>2) スタディサプリや手帳を活用させることにより、学習の振り返りと習慣化を目指してけるように導く。</p>	<p>○自らの進路について考えることができる力を身に付けさせる。</p> <p>○外部模試等の受験において、準備から振り返りまでを習慣化できるよう指導していく。</p> <p>○進路情報の提供を積極的に行い、意識の向上を図る。</p> <p>1) 全体に働きかけることと並行して、個別面談等においても情報収集の手段や方法についての具体的なアドバイスを心がける。</p> <p>2) 模試の振り返り等を行うことで、大学入試等への意識を高めていくと共に学習に対する態度の振り返りをさせる。</p> <p>3) キャンパス見学やオープンキャンパスに参加させることで、大学進学等への意識を高めさせる。</p>	<p>○学年内の分掌を効率的に果たす。</p> <p>○互いに声のかけやすい職場環境作りを目指す。</p> <p>1) 分掌に偏りがないかを常に検討し、改善を心がけながら協議していく。</p> <p>2) 学年内の円滑なコミュニケーションを心がけ、常に協力できる体制を整えていく。</p>
3 学年	<p>○学校行事等に全力で取り組ませる。</p> <p>○進路実現のために、実力をつけて進学、就職できるよう努力を継続させる。</p> <p>○面談をはじめ、普段から生徒との接点を多く設けて、問題点の早期発見に努める。</p> <p>1) 自ら為すべきことを常に見つけさせ、主体的に活動できるよう見守る。</p> <p>2) 広い視野で進路情報を収集させる。1ランク上の目標を提示し、達成できるよう助言する。</p>	<p>○自ら思考・判断する場面をつくり、主体的に課題を解決する力を育成する。</p> <p>○1・2学年時の復習から応用を引き出し、進路希望を実現する力の育成を図る。</p> <p>1) 授業展開の中に、生徒が主体的、協働的に学習活動する時間を設ける。</p> <p>2) 演習問題に多く取り組み、基礎力のさらなる定着と応用力の育成を図る。</p>	<p>○充実した進路指導を行うために、新しい情報を生徒に提供出来るよう努力する。</p> <p>○オープンキャンパスへの参加やネットでの情報検索、進路情報室の活用など、自分の進路については自ら動いて情報を仕入れるようにさせる。</p> <p>1) 様々な大学等の説明会や研修に参加する機会を設ける。</p> <p>2) 情報の仕入れ方に関してさまざまなツールをアドバイスして、自分から積極的に情報を収集させるようにする。</p>	<p>○効率よく学年業務が行える様に、業務内容や方法の整備を行う。</p> <p>○前年踏襲の意識を排除し、学年団でひとつひとつの業務をよく吟味していく。</p> <p>1) 各係の業務が効率よく行えるように精選や見直しを行う。</p> <p>2) 生徒の成長に真に役立つものは何かという視点から、時代にそぐわないものや効果の薄いものを排除し、より生徒によりそった業務を精選していく。</p>
国 語 科	<p>○協同的な学びを通して、他者との相互理解を深めると同時に自尊感情を養う指導を行う。</p> <p>○先を見通した学習計画を周知し、確か度で安心な学習活動の場を提供する。</p> <p>1) 授業の場でグループワークや発言しあう活動を多くし、他者の意見を尊重しつつ自分の意見を的確に伝えられる環境を作る。</p> <p>2) シラバスを活用し、定期試験はもちろん、単語テストや週末課題の提出に対し計画的に学習に取り組めるよう配慮する。</p>	<p>○基礎・基本の定着を図るため、家庭学習を習慣化する指導を行う。</p> <p>○幅広いジャンルのテキストを主体的に読み、物事を多角的に捉える力を身につけさせる。</p> <p>1) 漢字や単語、速読などのテキストを用いて語彙力を向上させ、知識の定着を図るため小テストを繰り返し実施する。</p> <p>2) 適切な課題を与え、主体的な家庭学習習慣の確立を促す。</p> <p>3) 授業を通して読解のプロセスを身につけさせ、どのようなジャンルの文章でも正確に読み取れるようにさせる。</p>	<p>○主体的な判断と行動につながる論理的思考力・表現力を身に付けさせ、進路実現に柔軟に対応する力を養う。</p> <p>○進路に応じた読書活動に主体的に取り組ませ、進路研究や受験に対応する素養を身につけさせる。</p> <p>1) 文学作品や評論において、社会や人間の在り方について深く考察し、自分の興味関心や進むべき道についても結びつけていけるよう、話し合いや文章による表現の指導を行う。</p> <p>2) 授業時に図書館を利用し、読書及びその記録を習慣化することで幅広い教養と見識を養わせる。</p>	<p>○ICTの活用により、授業内容の効率化・精選を計ると同時に、教材の共有による公平性の保持に努める。</p> <p>○自動採点システムの導入により、業務の効率化と正確性の徹底を図る。</p> <p>1) タブレットや映像教材などを活用し、生徒との対話的指導を行う。</p> <p>2) 「百問繚乱」の活用により、テストの採点の効率化と公平性の保持、及び不正行為の防止に努める。</p>
地 歴 公 民 科	<p>○生徒が学習に前向きに向かう姿勢を高めたり、達成感を得たりすることを意識して指導にあたる。</p> <p>○問題を抱えている生徒の発見に努め、その解決に向けて行動する。</p> <p>1) 良い言動は積極的に褒めるとともに、振り返り・小テスト・定期テストなど、生徒自身が学習の成果を感じられるようなものにする。</p> <p>2) 授業の様子・課題への取り組み・成績などで気になる生徒への声掛け・面談を実施したり、情報を担任等と共有したりする。</p>	<p>○生徒が目的や内容を理解したり、理解をもとにさらに深い学びに進んだりすることのできる授業を実践する。</p> <p>○生徒が家庭学習・自主学習等に習慣的に取り組む姿勢を身に付けられるよう支援する。</p> <p>1) 本時のねらいの提示、板書の工夫、ICT機器の効果的活用、問の探究など、創意工夫した活動を継続的に行う。</p> <p>2) 予習を前提とする授業展開、授業の振り返り、復習の指示、課題の提出など、創意工夫した活動を継続的に行う。</p>	<p>○進路意識の向上・進路選択の拡大の一助となるよう、積極的な情報発信に努める。</p> <p>○生徒が自身の学びを振り返ることができる状態の創出に努める。</p> <p>1) 情報の収集、入試問題等の研究・分析を進めその成果を生徒に還元したり、自身の経験・指導経験等に基づく話を紹介したりする。</p> <p>2) 授業で使用した教材（プリント）やテスト等のファイリングを促したり、それを振り返る機会を与えたりする。</p>	<p>○一人に負担が集中しない業務のあり方を追求するとともに、教科に関わる業務・情報を共有できる体制の構築を推進する。</p> <p>○教科として不祥事防止を図る。</p> <p>1) 業務分担を明確にし、また従来実施の校務用データや回覧による業務・情報の共有を維持するとともに反省点を活かした改善も図る。</p> <p>2) 教科全体だけでなく、同学年・同室・同科目の担当者等様々なレベルで不祥事防止を働きかけ合う。</p>
数 学 科	<p>○授業時の主体的な活動を通して、学ぶことに興味や関心をもたせ、粘り強く取り組む姿勢を育てる。</p> <p>1) 対話やグループ活動を通して、学ぶことに興味や関心をもたせ、粘り強く取り組む姿勢を育てる。</p> <p>2) 様々な解法を探究する中で、考え方の多様性を育む。</p>	<p>○身の回りの事象を数学的に解釈し、表現・処理できる能力の伸長を図る。</p> <p>1) 研究授業の実施および研究協議の充実やICT活用法の共有により、授業力の向上を図る。</p> <p>2) 生徒の実態に即した課題の提示やテストを実施し、骨太な学力を育成する。</p> <p>3) 新学習指導要領に即した指導と評価の一体化を図る。</p>	<p>○数学のよさを認識し、積極的に数学を活用しようとする態度を養い、社会の問題解決に取り組む姿勢を育む。</p> <p>1) 数学が実生活や社会でどのように活用されているかを伝える。</p> <p>2) 様々な学問との関連を伝えることで、上級学校での学びに興味をもたせ、進路の視野を広げる。</p>	<p>○教科担当者間での情報共有を図る。</p> <p>○ICTを活用し業務の効率を図り、よりよい教科指導のための時間を作る。</p> <p>1) 授業進度や指導法・教材の工夫などの情報を共有・蓄積し、学年を超えた指導の充実を図る。</p> <p>2) 百問繚乱を活用し、試験の採点を効率化することで、誤答分析等担当者間で共有・指導に生かす。</p>
理 科	<p>○実験・実習における安全管理を徹底し、生徒への周知と職員間の連携に努める。</p> <p>1) 実験室等のこまめな整理整頓を心掛ける。</p> <p>2) 生徒自身の安全に対する意識を高めさせるため、「実験室の使い方」や「実験をするときの注意」についてガイダンスを行う。</p> <p>3) 有事の際に早急に適切な対応ができるよう、日頃から教科内の連携を図る。</p>	<p>○授業や探究の過程をとおり、科学的思考力を育成するとともに、自発的な発言・行動ができるように促す。</p> <p>1) 授業中の発問を工夫することにより、常に思考する姿勢を生徒に身につけさせる。</p> <p>2) 理解度や到達度に応じた小テストなどをこまめに実施し、基礎力の確実な定着を目指す。</p> <p>3) 新学習指導要領に即した指導と評価の一体化を図る。</p>	<p>○生徒個々の能力や進路に応じた学習方法を確立させる。</p> <p>1) 実験をとおり、授業で学んだ知識を深化させるとともに、社会や身の回りの現象との関連に気づけるよう指導する。</p> <p>2) 生徒の進路希望を把握し、授業や課外で生徒に適切な指導をする。</p>	
保 健 体 育 科	<p>○自主的な授業への取組により、生涯にわたって豊かなスポーツライフが継続できる実践力が身に付く指導に努める。</p> <p>○全ての指導において、礼法指導等を通じた道徳教育を行い、状況に応じて主体的に考え実践する態度を養う。</p> <p>1) 体育委員や種目リーダーを中心に個人や集団の課題解決ができる生徒主体の授業展開を促す。</p> <p>2) 教室の出入りや先生方への言葉遣いについての礼法指導を徹底する。</p>	<p>○体育や保健での積極的なICTの活用</p> <p>○3観点に基づいた授業内容の研究</p> <p>1) 習得した知識や既存の知識を使い、動きと場を容容させたり、理想の動きと自己の実態を比較したりして立てた計画を実行させる。</p> <p>2) 計画して実行した運動内容を評価したり、改善策を考えたりすることを通して、自己の運動を振り返らせる。</p>	<p>○自主的な授業への取組により、生涯にわたって豊かなスポーツライフが継続できる実践力が身に付く指導に努める。</p> <p>○教科横断の指導で体力・技術の向上及び社会的態度を育成する</p> <p>1) 授業を通して成功体験ができるよう継続的な支援を行う。</p> <p>2) 保健や体育理論で健康と運動の重要性を理解させ、体育で実践させながら生涯スポーツの理解をより深めさせる。</p>	<p>○科内のICT活用術の共有</p> <p>○事前・発生時・事後の危機管理について科内で共通理解をはかり不祥事防止に努める</p> <p>1) 研修等で知識を習得し、科内で共有しながら授業内容の研究を進める。</p> <p>2) 過去に発生した事例の発生原因を分析・検討し問題の早期発見に努め、事前に解決するよう取り組む。</p>

		I 安全・安心な魅力ある学校づくり	II 確かな学力の育成	III 進路実現につながるキャリア教育の充実	IV 働き方改革の推進と不祥事防止
芸術科	具体目標	○芸術文化について理解を深め、望ましい人格の完成を目指す。 ○主体的・能動的な表現活動を通して、自分自身の価値を見出すとともに、他者を思いやる気持ち、道具等を大切に扱う気持ちを育てる。	○思いや意図を持って作品の制作や演奏を行うことができるようになる。 ○作者や発表者の思いや意図を感じ取り、自らの表現活動への工夫へとつなげることができるようにする。	○表現活動が生活に彩りを加える活動となるよう、主体的・能動的に活動できるように促す。 ○興味関心を持って積極的に授業に取り組みながら、芸術を愛好する態度を養い、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てる。	○教科間での情報共有 ○使用教材の精選
	具体方策	1) 諸活動を通じて基礎的知識・技能を習得し、表現力・想像力を育成する。 2) 表現活動を通して自身の有用性を感じ取らせるとともに、周囲への気遣いの心も育てていく。	1) なぜそう表現したいのか、どうすればそう表現できるのかを常に自問自答させる。 2) 鑑賞活動を自分の表現活動に活かすことができるよう、主体的に取り組ませる。	1) 自ら考えて表現をする力を養い、将来の趣味や興味・関心ごととして芸術を大切にしていける心育てる。	1) 音楽書教科間で各クラスの生徒の様子や雰囲気等の情報を共有し、問題の早期発見・早期解決に取り組む。 2) 使用教材を衛生面からも工夫をし、安全を確保して学習に取り組ませる。
英語科	具体目標	○授業を通して互いに学び合い、高め合う集団作りの育成 ○発言しやすい授業の環境作り ○スローラーナーに対する支援	○基礎学力の充実を図るために、主体的に学ぶ姿勢を養成する。 ○言語活動を充実させ、自ら学び、考え、判断する力の育成を図る。	○様々な分野の内容を英語で触れることで、視野を広げ、キャリア指導に繋げる。 ○英語の知識を深め表現力を高めるとともに、積極的にコミュニケーションを図る態度を育成する。	○教科内研究授業を行い、教員の質の向上を目指す。 ○タブレット端末を活用した授業の実践。
	具体方策	1) 生徒の実態把握に努め、教科内で情報共有を図ることで学習環境の改善を図る。 2) 学習相談をして、到達状況に応じてアドバイスをし、生徒が自信を持って学習に取り組めるように促す。	1) 予習・復習の徹底を図る。 2) 真摯な態度で授業に取り組ませる。 3) 小テスト等により継続的学習を促す。 4) 宿題や課題の内容と授業をリンクさせる。	1) 英語スピーチコンテストなどの各種大会への参加を促す。 2) 授業第一主義のもと、日頃の積み重ねの先に進路実現があることを意識させる。 2) 読書や新聞、インターネット等、様々な媒体を使い教養を	1) 定期的な教科打ち合わせをにおいて常に情報交換を行ない、直面している問題を共有する。 2) 課題の出し方を工夫し、確認作業の効率化を図る。
家庭科	具体目標	○安全に実験や実習に取り組むことのできる環境づくりを目指す。	○自らの生活や社会生活に課題を見出し、解決策を考え、実践する態度を養う。	○生活設計をとおして将来の職業観を養う。	○学習効果を上げるためICT機器を活用する ○効果的な教材の精選
	具体方策	1) 調理室、被服室の安全、衛生管理を徹底する。 2) 実験実習に必要な機器等の充実を図る。	1) 各分野を総合的、体系的に捉えることで家庭生活や社会生活に関する問題を提起し、自ら考える力を身につけさせる。 2) 体験活動を取り入れ、実生活に活用できる力を身につけさせる。	1) 人の一生を見直し、その中で予測される出来事とそこで獲得すべき資質について考えさせる。 2) 保育園実習等を通して、保育を職業的視点から捉えさせる。	1) WEB対応の副教材を有効利用する。 2) 特に金融教育や消費の分野では、公的機関から推奨されているHP等を活用する。
情報科	具体目標	○主体的な活動を通して自己有用感、自己指導能力の育成に努める。 ○他者と認め合い、自他を尊重する姿勢を育む。	○主体的に問題解決に取り組むことで、メディアリテラシーを育む。 ○新学習指導要領に即した指導と評価の一体化を図る。	○情報活用能力を育成する。	○教科担当者間での情報の共有を図る。 ○個人情報保護の徹底を図る。
	具体方策	1) 学習課題を提示し、どのように解決するか自ら手順を考え、実行させるようにする。 2) 自分でプログラムを作成し、さらに他者と教えあうことで他者を尊重する姿勢を育む。	1) Teamsを活用した課題配信を実施し、生徒の到達度に即した指導で骨太な学力を育成する。 2) 理論の学習と実習のそれぞれの場面に即した規準を検討し、評価する。	1) 伝えたい情報をわかりやすく表現する知識と技能を習得し、さらに発信ができるようになることを目指す。	1) 情報を共有し、風通しの良く、生徒の事を第一に考えた仕事ができるようにする。 2) TeamsやFormsで生徒の課題や回答を他の生徒が閲覧できる状態にしないよう十分留意する。
教務部	具体目標	○行事を安全に実施する。 ○国際理解教育や地域連携活動等、特色のある学校行事を推進する。 ○安心安全な学習環境の提供をする。	○生徒の適性・能力に応じた学習指導の充実に向けて学習環境を整える。	○キャリア教育に関する学校行事を推進する。	○業務の効率化にむけて業務内容や方法の整備を行う。 ○情報の管理を適正に行う。
	具体方策	1) ゆとりのある行事計画をする。 2) 国際理解教育や地域連携活動等、特色ある学校行事について、各係と協力して進める。 3) 教室の備品等について調査を継続し適切に対応する。	1) 教育課程が生徒の適性や進路希望に即しているか継続して検討する。 2) 研究授業を充実させる。 3) 学習指導部と連携して、採点支援システムの活用に関する校内研修を行う。	1) キャリア教育に関する学校行事について、進路指導部と連携して進める。	1) 各係の業務の進行を把握し、業務の検討・改善を行う。 2) 行事の精選・見直しを行う。 3) 校務支援システムを活用し、業務の効率化を図る。 4) 情報関係の危機管理に関する研修等を実施する。
渉外部	具体目標	○学校と家庭、地域との連携をはかり、生徒の社会性を育む教育活動を推進する。 ○保護者間の連携を深め、学年部会、各種専門部会、支部会活動の充実を図る。 ○PTA、同窓会、各種団体との連携を図り、円滑に事業を実施し、さらなる学校発展に寄与する。		○PTA総会での卒業生進路結果報告や各学年保護者会での進路指導情報について、家庭で保護者から生徒へ伝達してもらうことによって、進路実現に関する生徒の意識を高める。	○PTA役員保護者の負担を考え、運営委員会や専門部会を精選し、来校する回数を減らせるよう努力する。 ○PTA生活指導部保護者協力の登校時の交通立哨指導により、自転車通学の生徒の安全確保の一助とする。
	具体方策	1) P T A 活動について、役員、学年委員、支部会、部活動理事などが中心となり、学校と家庭の連携を密にして、充実した教育活動を推進する。 2) 同窓会活動について、同窓会理事と連絡を密にしながら、連携を取り、活動を円滑に行えるように努める。		1) P T A 総会や学年保護者会への保護者の関心と出席率を高める。 2) 校内美化の意識を養う。	1) P T A 会長・副会長及び執行部役員と綿密にコンタクトをとり、意見を伺い、決定していく。 2) 本校生徒指導部交通係と連携し、交通立哨指導を計画・実行していく。
健康指導部	具体目標	○健康の保持増進を図る。	○気力・体力の向上を図る。	○校舎内外の美化に努め、公共物の愛護の心を養成する。 ○緑化の推進にあたる。	○防災・安全対策を適切に実施する。
	具体方策	1) 保健室運営方針に基づき、保健計画を適正に実施する。 2) 「保健だより」を活用し、保健教育の推進を図る。 3) クラス出席率99%以上を目標とし、教育相談と連携を図りながら保健指導を行う。 4) 講演会や研修を通して健康や危機管理への意識を高めさせる。	1) 様々な場面での体育活動を通し体力の向上を図る。 2) 体育施設の整備・用具の充実を図る。 3) 校内マラソン大会を成功させるよう事前準備を十分に行う。	1) 全職員が清掃監督に当たり清掃美化を徹底する。 2) 校内美化の意識を養う。 3) 花壇整備など、緑化活動を積極的にすすめる。	1) 消防・防災・避難計画により安全・迅速に行動するように努める。 2) 定期的な施設・設備の点検を実施し、早期に修繕をすすめ事故防止に努める。
学習指導部	具体目標	○自己有用感を育成するための学習環境を提供する。 ○多様な教科外の活動により生徒の興味・関心を広げられるような指導を実践する。	○分かりやすい授業を展開するための研究を行う。 ○生徒の主体的な学習態度育成のために指導方法を工夫する。	○自己の将来につながる課題を見つけて、解決を図る探究的な学習を実践させる。	○業務の効率化を図り、生徒と向き合う時間を増やす。
	具体方策	1) 10分前登校・朝学の奨励により、学習環境を整備するとともに、係活動等より自己有用感を実感できる場を設ける。 2) 人権教育・主権者教育・福祉教育・国際理解教育・地域連携活動・図書活動等を通して学習意欲を喚起する。	1) 有効なICT活用や学習評価に対する工夫を図るなど、新学習指導要領を踏まえた授業展開を目指す。 2) タブレットを活用する課題を提示するなどして、家庭学習・自主学習の習慣化を促す。 3) 成績不振生徒に対しては個別支援を関係教科・学年と連携して行う。	1) 総合的な探究の時間において、自己の将来を見据えたテーマを選択し、探究活動を行うことで進路実現につなげさせる。	1) 関係部と連携して、ICTの活用をスムーズに行えるように環境を整備する。 2) 自動採点システムを導入にあたり、積極的な活用を呼びかけ、業務の効率化を進める。
進路指導部	具体目標	○校内外の諸活動への参加を促し、生徒の個に合った強みを育成する。 ○生徒がベストの状態での活動できるよう、環境を整える。	○進路実現に向けて、計画的に受験に臨めるよう、指導・支援に努める。 ○新課程での入試に対して、指導体制を構築する。	○生徒が自ら考え進路決定できるよう、きめ細かな指導・支援に努める。 ○生徒自身の適性に基づき、学校説明会や講座、その他の諸活動への参加を促す。	○効率よく業務を進めるとともに、体系的な指導体制について検討する。
	具体方策	1) 生徒自身の強みや諸活動での実績について、適切に表現・アピールできるよう指導・支援する。 2) 進路に関する生徒の相談事項について、担任および学年との共有に務める。	1) 生徒に家庭学習時間の記録を習慣化させ、経過を適宜振り返らせる。 2) 新課程入試に関する情報を収集、共有し、受験対策に関する助言が的確にできるよう努める。	1) 進路実現に向けて今何をすべきか考えさせ、計画的に行動できるよう声をかける。 2) 進学、就職に関する情報を収集し、速やかに生徒・保護者に提供できるよう努める。 3) 生徒が学習の記録手帳などを活用して、自身の活動実績を記録する習慣をつける。	1) 業務に関する情報共有を図り、業務が集中しないよう互いに協力し合う。 2) 生徒の出願手続き等の確認について、部内での協力体制を強固にする。
生徒指導部	具体目標	○自己指導能力を育成し自信と誇りを持つ生徒の育成 ○教育相談活動定着化	○いじめ防止と安心して学業に励むことのできる環境の整備	○生徒に応じた生徒指導諸問題への対処	○生徒の人権を意識した指導方法の徹底
	具体方策	1) 自己指導能力を高め自信と誇りを持つ生徒の育成 ① 凡事徹底と基本的な生活習慣を確立する。 ・制服を正しく着用させ学校への帰属意識を高める。 ・遅刻指導と「チャイムtoチャイム」を徹底する。 ・ルールの遵守やあいさつ、礼儀等本校の良き伝統を定着させる。 ② 自己管理能力を育成する。 ・自ら交通法規を遵守する態度を養い、苦情を減少させるとともに交通事故の減少傾向を維持する。 ・貴重品管理の指導を継続し、盗難を未然に防止する。 ・整理整頓を心掛けさせ、遺失物を減少させる。 2) 教育相談活動などの一層の活性化 ① SCを活用した特別支援体制を定着させる。 ② 各クラスの「生徒の情報調査」から、不登校生徒などの早期発見や早期対応に努める。	1) いじめアンケートとクラスの融和 ① 改訂「いじめ防止基本方針行動計画」を職員間で共有、徹底する。 ② いじめ情報共有シートの周知を行い効果的に活用する。 ③ 学業指導を通じ、学習に取り組むクラスの集団意識の高揚を図る。 2) 規範意識や人権意識の高揚、自己有用感の育成 ・日々の生活において、一般社会に通用する規範意識や礼儀作法・マナーなどを身につけさせる。	1) 生徒に応じた生徒指導諸問題への対処 ① 各係の円滑な職務の遂行と、問題発生時に迅速かつ柔軟に対応できる協力体制を構築する。 ② 日常から各部・各学年とのコミュニケーションを行い、指導を通じて自己理解の深化につながるよう生徒指導諸問題に対処する。	1) 日々の生徒への指導に際して、生徒の状況や人権などに配慮した言動等となるよう注意する。

		I 安全・安心な魅力ある学校づくり	II 確かな学力の育成	III 進路実現につながるキャリア教育の充実	IV 働き方改革の推進と不祥事防止
特 活 部	具体目標	○部活動の一層の充実を図る。 ○多くの行事を安全安心に実施する危機管理の徹底と学校行事の変更に対する臨機応変な対応を図る。 ○生徒会活動・部活動を安全に実施する。	○国際理解教育・インターアクト、地域連携、福祉教育との連携を図る。 ○部活動指導者の資質の向上、共通理解を図る。	○生徒会活動の充実を図る。 ○ホームルーム活動の充実を図る。	○生徒会活動・部活動の効率化を図る。 ○部活動の不祥事防止の徹底を図る。
	具体方策	1) 部活動への参加を奨励し、個々の特性・能力の伸長を図る。 2) 学習状況、通学状況、健康管理等、関係職員との連携を密にし、個々の生徒への共通理解の深化を図る。 3) 天候、感染症等の状況での最悪の事態を想定し、危機管理の徹底、行事の変更等、臨機応変に対応する。 4) 危機管理体制を確立し、未然事故防止、緊急時対応の周知を徹底する。	1) 学習指導部の国際理解教育・インターアクト係、地域連携・福祉教育係と生徒会が連携を図るように留意する。 2) ボランティア活動や地域との交流活動、インターアクト活動に積極的に参加するよう指導する。 3) 本校と国際社会、地域社会の懸け橋となるインターアクト活動を実践し、国内外の文化に触れる機会を増やし、グローバルな人材を育成する。 4) 部活動顧問会議等で、校内研修を充実させ、部活動においての共通理解を図る。 5) 外部からの講習会を活用し、部活動指導者の資質の向上を目指す。	1) 生徒会役員をはじめホームルーム役員等のリーダーシップをとれる生徒の育成を図る。 2) 諸行事では生徒の自主的・創造的活動の活性化を目指し、積極的に緻密な企画・運営がなされるよう指導する。 3) 礼儀正しい人間を育成する。単に技能だけを高めるのではなく、お互い協力し助け合う等、心豊かな生徒を育てる。 4) 十分な時間数を確保し、綿密な年間計画、事前準備等により円滑な運営が行われるよう努める。 5) 学校生活の基盤としての場であるので、クラス内の融和を図るとともに、自主的・自律的な態度を育てる。	1) 生徒会活動において、効率化を図るために、オンラインツール等を活用したり、省略できる内容を厳選し、活動の効率化を目指す。 2) 部活動において、部活動指導員等の活用で、活動時間や練習内容などの効率化を図る。 3) 部活動において、生徒、保護者対応等、複数顧問で対応し組織で動く。
事 務 部	具体目標	○職員心と身体の健全化を図るため、計画的な年休取得に務める。			○職員一人ひとりの意識改革と業務の進行管理を適切に行い、風通しのよい職場環境の整備に努める。
	具体方策	1) 年間年休取得日数を15日以上を目標とする。			1) メリハリのある業務遂行を心がけるとともに、教職員からの要望等に対しては、適時適切な対応に務める。